

黎明

学校だより
柳川市立城内小学校
R3. 10. 1
No. 5
発行者 立花 輝

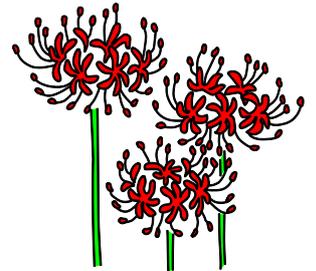
二学期制の前期が終了し、後期の教育活動が始まります

秋冷の候、皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。

さて、本年度の前期が、10月8日（金）で終了となります。そして、10月11日（月）より後期が始まります。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、前期に予定されていた様々な行事等の取組みが延期となり、後期は多くの行事が目白押しです。

今後の行事等は、10月に、個人懇談、城内小スポーツフェスタ（ミニ運動会）、11月に、6年生対象の柳城中学校区陸上記録会、修学旅行、5年生対象の宿泊体験学習の代替行事（清水山遠足）等を計画しています。様々な行事等において本年度も制限が加えられる中で、一つ一つの行事等の取組みが有意義なものになることを祈念しています。



今、子どもたちに大切だと考えること(その2)

子どもへの「優しさ」を大切に「甘やかし」をなくす

現代の子どもは、すべてにおいて満たされた時代に生きているといっているいいでしょう。「もの」と「こと」の両面においてです。私たちが、子どもの頃は、今の子どもたちに比べて我慢させられることが多かったように感じますが、如何でしょうか。そこで、子どもたちの心身の一層の向上を図るために、「優しさ」と「甘やかし」について考えてみたいと思います。いくつか例をあげますので、どちらにあてはまるか、判断してみてください。

- Q1：子どもが、「きつい」、「やめたい」、「休みたい」と言った時、認めてやること
- Q2：子どもが、食べたいといったものを買ってやること
- Q3：子どもが、習い事に行く時、送迎してやること（遠距離や安全面が保障できない場合は除く）
- Q4：子どもが、月のお小遣いを遣ってしまい、困っている時に、前貸ししてやること
- Q5：子どもが、忘れ物をした時、学校まで忘れ物を届けてやること
- Q6：子どもが、宿題をしておらず、「先生に叱られる」と泣きついて来た時に、正当な理由を連絡帳に書いてやること

いくつ、「優しさ」があって、いくつ、「甘やかし」があったのでしょうか。結論から言うと、どちらが「優しさ」で、どちらが「甘やかし」という正解はありません。しかし、私は、以下の視点にたって、判断し、子どもたちに関わっていくことが大切であると考えています。

- ① 子どもの高まり（学力面、徳育面、体力面、精神面、行動面、社会性、自立性等の向上）につながる事
- ② 子どもが、達成感や成就感、満足感を味わい、次の取組みへの意欲につながる事
- ③ 自尊感情や自己他者肯定感の向上につながる事
- ④ 子どもに過度なストレスを与えないこと（ある程度の我慢は、耐性の向上につながります）

これから先が不透明な昨今、どんな時代になっていくのか、どんな資質や能力が必要とされるのか。また、一方で、時代に関係なく、不易な資質・能力として、どんな資質・能力を身に付けた人間形成が必要なのかを考えながら教育していくことが大切だと考えます。どのレベルまで子どもの欲求を満たし、どのレベルまで生きていく上で必要な耐性と考えられるかが重要になってきます。ご家庭でも家庭教育のあり方について話題にしていただければと思います。皆様のご感想やご意見をいただければ幸いです。

